

さいたま市立内谷中学校



教育目標 ・進んで学ぶ ・心豊か ・たくましく

令和5年3月2日

〒336-0034 さいたま市南区内谷 6-10-1 Tel 048-861-7571 <http://uchiya-j.saitama-city.ed.jp>

継承、そして未来へ

校長 高山 俊介



第2号&第40号

先日、本校の生徒会機関誌「白いノート」第41号の発刊に寄せる言葉をしたためる際に、開校当時の機関誌を読み返してみました。第2号（昭和59年3月15日発行）の編集後記から、第2号の発刊にあたり生徒へ誌名を募集し、校歌から抜き取ったものであると記してありました。読み返ししながら、市文化センターにおいて3

年ぶりに全校開催した合唱祭で、着任以来初めて全校生徒による校歌「白いノート」の斉唱を聴くことができた時の感動が蘇ってきました。同時に改めて、本校の「白いノート」という言葉にこめられた何年先をも見据えた開校当時の強い想い、願いを再確認しました。以下、校歌制定時（昭和58年3月8日）のリーフレットより、抜粋

さくら草と樺に託して

さくら草が可憐な花をつけるのは、一年のうち、わずかひと月たらずです。四月に咲きはじめ、五月にはもう散ってしまいます。花としてはとても頼りなげですが、その種子は厳寒に耐え、毎年春の武蔵野を美しく色どります。他人からは儂くみえる夢も、しっかりした土壌に根ざしてさえいれば、かならず開花します。

冬の樺ほど繊細な樹木はありません。いまにも折れそうな無数の小枝が、寒空に突き立っています。木枯しの吹く日は、まつげのようにふるえます。春になるとその小枝が赤くふくらみ、やがて緑の霞がかかったように新芽が萌え、みるみるたのもしい緑陰をつくります。夏の樺ほど立派な樹木はほかに見当たりません。

武蔵野の自然を象徴する樺とさくら草に、未来への夢と希望を託しました。さくら草の花弁と樺の葉をデザインした校章とともに、いつもでも愛されることを願っています。 榎本富士夫：作詞・寺島尚彦：作曲

開校41年目、コロナ禍3年目となる今年度は、3年ぶりに各学年の宿泊学習や体験学習、全校開催の合唱祭と体育祭などを実施することができました。それだけではなく、コロナ禍初年度に入学となってしまった第3学年の生徒たちが、長きにわたり行動制限下での学校生活であったというハンデをものともせず、内谷中の顔・最高学年として後輩の先頭に立ち、獅子奮迅の活躍を見せてくれました。そして、未来への夢と希望を託した歌詞に慣れ親しんできた卒業生が、自分らしい進路を実現させ、次のステージに羽ばたこうとしています。門出となる卒業式における歌声が、一人ひとりの「^{がんばれ}顔晴」に花を添えることを期待しています。また、その晴れの日を迎えられるのも、保護者・地域の皆様のご支援ご協力の賜物と衷心より感謝申し上げます。